

## 税金という約束

仙北市立角館中学校 3年 畠山 桜叶羽

私たち国民が払う税金。それは手元に、お金として戻ってくることはありません。多くは私たちの生活をよりよくするために、国の計画のもとに使われます。しかし、私は今まで、どうして納税が義務になっているのか疑問に思っていました。「税がなくても、暮らしが不便になることはないだろうに、なぜ義務なのだろう。」そこで調べたところ、ある偉人が出てきました。「学問のすすめ」を書いた福沢諭吉です。

福沢諭吉はその中で「政府は人々の生活や安全を守る。しかし、それを行うために必要な費用がないので、税金としてみんなに負担してもらう。これは政府と国民双方が一致した約束である。」と著しています。税金は、国と私たちの約束であるという意味です。つまり、国と私たちの信頼関係を築いているのも税金である、ということだと思えます。そしてこの約束は、私たちが生まれる前から続く歴史であり、私たちがつないでいくべき未来でもあります。私たちはこの約束をずっと受け継いでいかなければならない立場にいるのです。私は、もっと若い世代がそのような意識をして過ごすことが大事だと思います。

おととしの十二月、新型コロナウイルスが発見され、マスク、手洗い、消毒など、感染対策をしっかりとって過ごす日々が始まりました。そんな時、安倍首相や政府が行った政策を、覚えているでしょうか。マスク不足や価格の高騰に対応し、政府は布製のマスクを配給しました。どのようなものだったかという、マスク不足やマスクを買うことができずに困っている人のために、政府が四百六十六億円を使用して配給したものです。しかし、「サイズが小さすぎて使えない。」「耳までひもが届かず、使えない。」といった声が相次ぐこととなりました。

この四百六十六億円という額はどこから出ているのか。それは私たちです。私たちが払った税金で、私たちにマスクが配布されました。しかし中には「こんなにお金を使うなんて、税金のムダだ。」という考えの人もいます。私も今までそのように思うことがありましたが、税について知って、それは間違っていると思いました。なぜなら、私たちが税金を納め、そのお金で国民のために政府が政策を行うのは、私たちと国の「約束」だからです。私たちが税を払い、国は私たちにマスクを配布する、という国民のための政策を行うことで、ちゃんと「約束」が成り立っています。それを簡単に「税金のムダ使い」なんて言うてはいけないと思います。

今まで続いてきた、これからも続いていくべき「約束」。これを守っていくのは、私たちです。前の世代から受け継ぎ、次の世代へつなげなければいけません。今後の日本のためにも、私はもっと税について知らなければいけないと思っています。そして、社会に貢献できる生き方をしていきたいです。